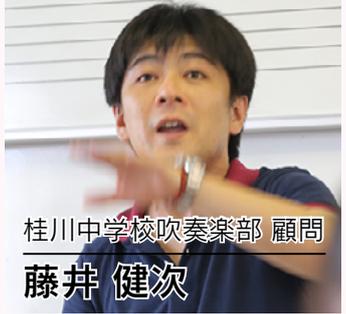




Interview

## 人として 魅力のある人間を育てる



桂川中学校吹奏楽部 顧問

藤井 健次

桂中吹奏楽部には、「礼節・努力・理想」という部訓のほかに「音楽面で一流を目指すものは、生活面でこそ一流であれ」という基本方針があります。

私は吹奏楽部の顧問ですが、プロの演奏家を育てている訳ではありません。生徒たちの音楽的な技術面の向上だけでなく、あいさつや時間励行、場に応じた言葉遣いや態度などの社会性や自主性、自発性の育成を目指しています。一人の人間として社会を生きることができ、人として魅力のある人間を育てたいんです。

そのためには、部訓が示すとおり、人を敬い感謝する気持ちと、自分の理想、そしてそれに近づくための努力が必要です。桂中吹奏楽部に受け継がれているその理念を忘れないように、これからも指導を続けていきたいと思います。



## 響き続ける 桂川のハーモニー

**10**月24日。この日は桂川中学校文化発表会。桂川中学校文化部の作品展示や合唱コンクールのほか、桂中吹奏楽部の演奏も行われる。

この演奏で三年生は引退。桂中吹奏楽部として演奏するのは、これが最後の舞台となる。最後の観客となるのは桂川中学校の全校生徒だ。

演奏する曲は、コンクールで金賞を受賞した曲を含め4曲。最後の曲では、引退する三年生一人ひとりがソロ演奏を披露。それぞれのソロ演奏が始まると、観客席から「みさきー！」「おつかれさまー！」などの声援が飛ぶ。

そして、「最後の観客」の中には、三年生のソロ演奏を聴きながら涙を流す女子生徒もいた。

何も知らない人がその光景を見ると、「なぜ泣いているんだろう」と不思議に思うかもしれない。しかし、おそらくその生徒は知っているのだ。桂中吹奏楽部が、音楽室で、町のイベントで、コンクール会場で、どれだけ練習と演奏を

続けてきたかを。三年生の部員が、今日、最後の舞台上立つことになどんな意味があるかということ。

\*

三年生はこの日で引退し、3月には卒業する。高校に行っても吹奏楽を続けるかはわからないが、彼らは桂中吹奏楽部の3年間で学んだことを決して忘れないだろう。

一方、残された一、二年生の部員たちは、来年のコンクールに向けてすでに動き始めている。

来年も金賞を受賞できるよう、練習の日々は続いていく。しかし、金賞は目標の一つに過ぎない。部員たちが口にする「聞いている人を感動させたい」という想いこそが、少人数の桂中吹奏楽部に金賞をもたらした源となっている。そして、その想いは、「礼節・努力・理想」の部訓とともに、次の代へと受け継がれていく。

その想いが受け継がれていく限り、桂中吹奏楽部が奏でる「桂川のハーモニー」は、音楽室で、町のイベントで、コンクール会場で、いつまでも、響き続ける。

(特集)響け！桂川のハーモニー(1)完

